



伝統の大綱が
人々を引き寄せる

9月22日、笠之原公園で「第22回笠之原十五夜大綱引大祭」が開催されました。これは江戸時代中期から続くことされ、五穀豊穡や無病息災、商売繁盛などを願う伝統行事。4日間に渡って稲わらで編まれた直径50cm・長さ80mの大綱で行われた綱引きでは、待ちわびた住民らが、ホラ貝の音を合図に、威勢よく声を上げながら引き合いました。



鹿屋工ボクシング部
が高校総体で活躍

9月10日、鹿屋工業高校ボクシング部の選手・関係者が市役所を訪れました。これは、8月に岐阜県で開催された「全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会」の各階級で優秀な成績を残したことによるもの。中でも荒竹一真選手(1年)はピン級で優勝、松久保拓海選手(2年)はウェルター級で第3位に入り、10月の国体に向けて弾みをつけました。



リナが子どもたちの
遊び場に変身!

9月9日、リナシティかのやで、「まるごとキッズフェス2018」が開催されました。これはリナシティかのや全館を使った子供向けのイベントで、ばらちゃんなどのご当地「ゆるキャラ」たちによる相撲や、カンパチダンスコンテスト、ランニングバイク競争、ミニ四駆大会、自転車・カヌー体験などがあり、多くの親子連れでにぎわいました。



元気な百寿者を訪問

9月11日、今年度100歳を迎える高齢者のお宅を市長が訪問しました。この日訪問したのは松園義則さん(浜田町)と、門倉スミエさん(吾平町)のお宅。松園さんは野菜作りが一番の楽しみで、毎朝近所の介護施設へ野菜を届けているとのこと。門倉さんは外出することが大好きで、ドライブや外食など娘さんと色々な所に出掛けているそうです。



66回目を迎えた
伝統ある相撲大会

9月23日、小鳥神社(野里町)で「野里消防大相撲大会」が開催されました。この日は小学生の学年別個人戦や赤ちゃんの健康祈願土俵入りなどが行われ、会場は大いに盛り上がりました。



中学スポーツの「二刀流」
が陸上での飛躍を誓う

9月21日、8月の「第45回全日本中学校陸上競技選手権大会」男子3,000mの部で第4位に入賞した須山向陽さん(田崎中3年)が市役所を訪問。須山さんはテニスでも県優勝の実績がある選手です。



幅広い世代が介護や福祉
に理解を深める

9月18日から21日まで、市役所で「一得! 高齢者ねんりん生き活き週間」が実施されました。期間中は高齢者に理解を深める出張サロンやオレンジカフェ、体験ブース等が開催されました。



映画「あん」が
ハンセン病への理解

9月16日、市文化会館で「鹿屋市ハンセン病問題啓発講演会」が開催されました。ハンセン病をテーマとした映画「あん」の上映後、講演会に原作者のドリアン助川さんと主人公の精神的モデルとされる上野正子さんが登壇。上野さんは「13歳で隔離され差別を受け、教師になる夢は絶たれたが、人生を恨んではいない」と語り、来場者の心を打ちました。



拉致事件を
決して忘れない

9月26日、市文化会館で、劇団「夜想会」(東京都)による舞台劇「めぐみへの誓い-奪還-」が上演されました。これは、拉致問題への認識を深め、広く理解してもらうため、政府が企画したもの。主演の原田大二郎さんや市出身の上島尚子さんが、拉致事件当日の様子や被害者家族のこれまでの歩みを熱演し、涙をぬぐう観客の姿も見られました。



市出身・出水田プロ
ゴルフ国内ツアー初優勝

9月7日、市出身のプロゴルファー出水田大二郎選手が、8月に国内ツアー初優勝を果たしたことを受け、市役所を訪問。同選手は「平常心を心掛け早く2勝目をあげたい」と誓いました。



プロから学べるミニ講座
で商店街を元気に

8月10日～9月20日、北田・大手町・鹿屋本町一番商店街等で「第2回鹿屋まちゼミ」が開催されました。期間中は全35種類の講座が催され、参加者はプロならではの知識やコツを学びました。



マスターズ陸上競技の
九州大会で新記録

9月11日、王子町の東郷博乃さんが市役所を訪れ、7月の「第35回全九州マスターズ陸上競技選手権大会」の女子30歳～34歳クラスでの2種目優勝と新記録更新を報告しました。



スポーツを「支える」
楽しみを学ぶ

9月22日、市役所で「スポーツボランティア研修会」が開催されました。これはスポーツイベントや大会等で活躍するスポーツボランティアを養成するもので、26人が受講しました。



楽しみながら健康づくり

9月16日、市中央公民館で「鹿屋市秋の健康まつり2018」が開催されました。この日は健康度測定やヨガなどの各種体験講座が開かれ、参加者は楽しみながら健康について学びました。



高校生のユニークな
空想歴史物語に感嘆

9月24日、市文化会館で「かのや明治維新150周年記念事業講演会・市民シンポジウム」が開催され、市内の高校生が「西郷どんがいなかったら」など幕末・維新の「たられば」物語を発表しました。